

「聞こえにくさ」感じませんか？

「聞こえにくさ」は、命にかかわる状態ではないため、軽視されてしまいがちですが、聞こえの重要性は世界中で注目されています。それは、聞こえにくさの原因はさまざまですが、「聞こえ」の問題が、認知症、うつ病、フレイル(こころや身体の活力が低下して介護が必要な状態に陥りやすい弱ってきた状態)の発生等に関係しているといった報告もあるからです。(出典・引用:厚生労働省「聞こえにくさ」感じませんか?)

難聴とはどんな症状なの？

耳の健康チェック

これらの項目が当てはまると一度受診してみた方が良いかも！？
簡単にチェックしてみましょう。

- 話し声をはっきりと聞き取れず、聞き間違えたり聞き返したりすることがある
- 相手の言ったことを推測で判断することがある
- 話し声が大きいと言われる
- 家族からテレビやラジオの音量が大きいと指摘される
- 集会や会議など数人で会話がかたくなりに聞き取れない
- 後ろから呼びかけられると気づかないことがある
- 車の接近に全く気がつかないことがある
- 電子レンジの音やドアのチャイムの音が聞こえにくい
- 時計のアラームなど、高い音が聞き取りにくいと感じる
- 音の方向感がわかりにくくなる
- 耳が詰まったような感覚が抜けない
- 「ワーン」「キーン」などの音が耳で鳴っている状態が1日以上続く
- 音が割れたようにカシャカシャ聞こえる

どんな年代で難聴になるの？

加齢性難聴とは？

年齢を重ねることで徐々に進行する聴力低下のことを指します。一般的に40歳代から聴力が低下する傾向があるとされており、65歳を超えると、聞こえにくさを感じる人が急激に増え、75歳以上では約半数の方が聞こえにくさを感じているとも言われています。



どんな環境で難聴になるの？

● ヘッドホン難聴(イヤホン難聴)

ヘッドホンやイヤホンを使い、大きな音量で音楽などを聞き続けることにより、音の振動を脳へ伝える役割をしている有毛細胞が徐々に壊れて起こる難聴です。



● 騒音性難聴

長時間大きな音を聞き続けることで、音を伝える役割をしている有毛細胞がダメージを受け、高い音から徐々に聞こえにくくなっていきます。



難聴の影響



「聞こえにくさ」
感じませんか？



「耳の日」3月3日

「耳の日」は、難聴と言語障害をもつ人びとの悩みを少しでも解決したいという、社会福祉への願いから始められたもので、日本耳鼻咽喉科学会の提案により、昭和31年に制定されました。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では毎年「耳の日」に、都道府県ごとに、難聴で悩んでいる方々の相談や、一般の人びとも耳の病気のことや、健康な耳の大切さを知っていただくための活動を行っています。ちなみに、3月3日は、電話の発明者であり、ろう教育者であったグラハム・ベルの誕生日でもあります。

公益社団法人大阪府歯科衛生士会

「公益事業重度障がい者施設等での歯科保健指導奉仕活動」

毎日の口腔ケアが笑顔につながるように、障がいがある方の口腔の健康を私たちがサポートします。多くの方に本事業を広く知っていただくためにチラシを制作しましたのでご活用ください。

